

前田道路／広島合材工場で低炭素合材製造へ／燃料変更、電力を再エネ化

前田道路は、広島市佐伯区にある広島合材工場で2022年1月から低炭素型アスファルト合材の製造、販売を始める。燃料の変更や再生可能エネルギーに由来する電力の活用などで、製造時の二酸化炭素（CO₂）排出量を半減する。

同社は30年度にCO₂排出量を13年比で50%削減し、50年度にカーボンニュートラルを目指している。

広島合材工場では骨材など加熱乾燥に使う燃料を重油から都市ガス75%、バイオマス由来のバイオ重油25%に変更。プラント稼働電力も再エネ由来に100%切り替える。合材1トン当たり16キロのCO₂削減を見込む。

アスファルトに少量の水を添加し混合物製造温度を最大30度低減できるフォームドアスファルト装置も備え、さらなるCO₂削減につなげる。同社はカーボンニュートラルアスファルト混合物の製造を通じて環境に優しい道づくりを実現していく。

記事ID : 3202112200307